



満月の夜開く けいはんな哲学カフェ

第61回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る

— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《政治・経済分野》

「菊と刀」にこと寄せて「民主主義」の行方を考える。

— 公共政策規範としての「将来世代に対する責任」—

講師： 京都大学名誉教授 **足立幸男** 先生

【講演要旨】 「将来世代に対する責任」というコトバは今日各界のリーダーが好んで口にするものの一つであるが、それがはたして単なるコトバ以上の「生ける倫理」として定着し現実の公共政策に体现されるようになったかといえば、極めて疑わしい。民主主義の正規の手続きに則って堂々と将来世代の福利に致命的打撃を与えかねない「近視眼的」政策が繰り返し採択されているからである。自然への畏敬の念を抱き、(先行世代から受けた恩義を後続世代への配慮という形で返すことを要求する恩の倫理を大切に、周囲を顧みず己一人の本能と欲望の赴くままに生きるがごときは畜生道に他ならない、また「末代までの恥」になるような行いだけは何としてでも避けねばならないと諭す教えが忘れ去られてしまった今日、将来世代への責任の倫理をどうすれば蘇らせることができるか。どのような制度の新規導入が将来世代の福利に配慮した政策の選択・実施の可能性を高めることができるのだろうか。

【講師紹介】 京都大学名誉教授。1947年10月名古屋に生まれ、京都大学法学部及び同大学院法学研究科での学習・研鑽を経て、1975年4月帝塚山大学教養学部に着任、1985年4月から京都大学に奉職(教養部、京都大学大学院人間・環境学研究科)、2008年3月退職の後、関西大学政策創造学部(2008年4月～2013年3月)、京都産業大学法学部(2013年4月～2018年3月)教授を歴任、また京都府立大学公共政策学部・大学院創設(2008年4月)以来今日に至るまで客員教授を務める(京都大学名誉教授)。

主要業績に、『議論の論理』(木鐸社)、『政策と価値』(ミネルヴァ書房)、『公共政策学入門』(有斐閣)、『公共政策学とは何か』(ミネルヴァ書房)、*Transition Management for Sustainable Development* (United Nations University Press)、*Policy Analysis in Japan* (Policy Press)、等がある。

【参考図書】 ご講演の内容の理解を促進するために次の図書が有益です。※特にご推奨する書籍です。

※ルース・ベネディクト『菊と刀』(講談社学術文庫)

※足立幸男(編)『持続可能な未来のための民主主義』(ミネルヴァ書房)序章 p.1-14

ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』(東信堂)

フリードリッヒ・ハイエク『法と立法と自由』(全3巻 春秋社)

山岡正義『魂の商人 石田梅岩が語ったこと』(サンマーク出版)

イエヘッケル・ドロア『統治能力』(ミネルヴァ書房)

日時： 2018年7月27日(金) 18:00～20:30

会場： 公益財団法人国際高等研究所

参加費： 2,000円(交流・懇談会費用を含む)

定員： 40名(申し込みが定員を超えた場合は抽選)

申込： 高等研のHPからお申込みください

<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>

締切： 2018年7月25日(水)

問い合わせ先： 国際高等研究所 ゲーテの会事務局

TEL：0774-73-4000 E-mail：goethe0828@iias.or.jp

けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。



公益財団法人
国際高等研究所